

たのしい組版

E X C I T I N G

TYPE

組版を愛するすべての人に贈る 組版基礎学習マガジン

VOL.3

和文書体の基礎知識

主な書体 / 和文書体を構成する要素 /
スタイル / ウェイトとファミリー

和文書体セレクション

明朝セレクション / 呉竹セレクション /
丸呉竹セレクション / 伝統書体セレクション /
装飾書体セレクション

すべての書体がここに集まる

書体総力特集第1弾

和文書体編

(この資料はアイワード プリプレス部が「組版の基礎知識を深める」ことを目標とし作成した学習資料です)

36 The Foundation of Japanese Font

和文書体の基礎知識

41 Japanese Font Selection

和文書体セレクション

54 History

なつかしの会社案内からアイワードの本づくりにかける思いを辿る Part 1

【和文書体の歴史】

上海から長崎に活字の技術が伝わる

- 1522~66 明朝体を使った書物が日本に渡来
- 1678 明朝体を使った木版本「大蔵経」が出版される

金属活字の黎明期

- 1869 ウィリアム・ギャンプルの指導のもと、本木昌造が明朝体の活字を開発
- 1872 長崎新塾出張所・活版製造所（後の東京築地活版製造所）を設立→「築地体」を開発
- 1882 秀英舎鋳造部製文堂（大日本印刷の前身）設立→「秀英体」を開発
- 1920 岩田母型製造所（現・イワタ）設立→「岩田明朝体」を開発
- 1922 モトヤ商店（現・モトヤ）設立→'50年頃に「モトヤ明朝体」を開発

写真植字の黎明期

- 1926 石井写真植字機研究所（現・写研）設立→'32年に「石井太ゴシック」、'33年に「石井中明朝」を開発
- 1947 晃文堂（現・リョービイマジクス）設立→'58年に「晃文堂明朝（本明朝）」を開発
- 1948 写真植字機製作株式会社（現・モリサワ）設立→'60年に「太明朝 A1（A1明朝）」を開発

電算写植の時代

- 1962 「タイボス」（グループ・タイボ）明朝体、ゴシック体とは異なる独自の書体として反響を呼ぶ
- 1973 「ナール」（写研）その後の丸ゴシックの規範を確立した
- 1974 「見出しゴシック体 MB 101（ゴシック MB 101）」（モリサワ）伝統的なゴシック体
- 1975 タイプバンク設立（グループ・タイボの林隆男が主宰）
- 1975 「本蘭明朝」（写研）現代的な字形の明朝体。第二の明朝として本文書体などに広く使用される
- 1975 「ゴナ」（写研）現代的な字形のゴシック体。'80年代に一世を風靡した
- 1977 「ナウ」（リョービイマジクス）シリーズの開発をリョービイマジクスがタイプバンクと共同でスタート
- 1982 「リュウミン」（モリサワ）森川龍文堂活版印刷所の明朝体をベースに復刻、再デザイン

DTP の時代

- 1987 モリサワがアドビと提携し、フォントの共同開発と販売契約を結ぶ
- 1987 ダイナラブ（現・ダイナコムウェア）設立
- 1989 モリサワがフォントをオープン化（「リュウミン L-KL」、「中ゴシック BBB」）
- 1989 字游工房設立（写研から独立した鈴木勉、鳥海修、片田啓一が設立した）
- 1990 「新ゴシック（新ゴ）」（モリサワ）現代的な字形のゴシック体
- 1990 「ロダン」（フォントワークス）香港のフォントワークスとデザイナー・佐藤俊泰による共同開発
- 1992 「マティス」（フォントワークス）香港のフォントワークスとデザイナー・佐藤俊泰による共同開発
- 1993 「セザンヌ」（フォントワークス）香港のフォントワークスとデザイナー・佐藤俊泰による共同開発
- 1993 「スーラ」（フォントワークス）香港のフォントワークスが開発した丸ゴシック体
- 1993 フォントワークスジャパン（現・フォントワークス）設立
- 1993 「ヒラギノ明朝」（大日本スクリーン製造）字游工房が共同開発
- 1998 「小塚明朝」（アドビシステムズ）元・モリサワの小塚昌彦が制作統括を務めた
- 2003 「AXIS Font」（タイププロジェクト）和文のサンセリフ書体
- 2004 「筑紫明朝」（フォントワークス）元・写研の藤田重信が開発

書体とは……

「字体」は文字の抽象的なイメージのことを指します。Aさんが書いた「あ」という文字は、Bさんが書いた「あ」とは厳密に言えば形が異なりますが、これは「同じ字体を描いた」こととなります。

これに対して、「字形」とは字体を具体的な形で示したもののことを言います。同じ文字でもこのように個人差による筆跡の違いのようなものがある場合、二つの文字は「字形が異なる」と言えるのです。

書体とはこの字形の方向性を一貫したコンセプトで揃えた文字の集まりのことを指します。

日本の文字の歴史は中国から伝わった漢字に始まり、それらの文字をアレンジすることによって、日本独自のひらがなやカタカナが生まれることになりました。

16世紀には同じく中国から、明朝体を使った書物が日本に渡来します。その後、19世紀になって初めて日本独自の金属活字が作られ、これが日本の印刷用書体の歴史の始まりです。

この時に作られたのが、**築地活字**と呼ばれるものであり、その後続く多くの書体に影響を与えた金属活字です。それから印刷の歴史は活版、写植、デジタルを経て、現在は日本語の書体だけでも数え切れないほどの種類があります。

今号ではこれらの和文書体の歴史とともに、その流れから書体を見分けるための基礎知識を紹介します。

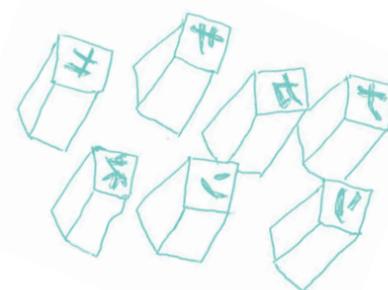


Aさんが書いた「あ」



Bさんが書いた「あ」

字体は同じ
字形が異なる



いろはにほへど

いろはにほへど

築地体をデジタルで覆刻したもの



The Foundation of Japanese Font

主な書体

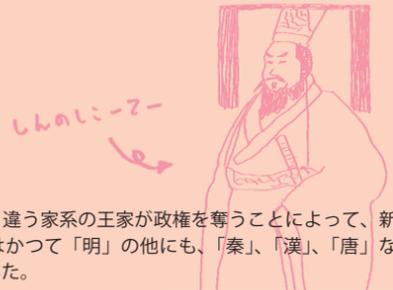
和文書体の代表的なカテゴリーを挙げるとすれば、明朝体とゴシック体を欠かすことができません。この他にも長い歴史の中で様々な書体が生まれました。

明朝体

永 あ
ア A

明朝体は筆の質感を持った書体で、横画の始めの打ち込み、終わりのうろこ、縦画のはね、左右のはらいなどがあります。元は中国から伝わったもので、明朝体の「明」は中国の王朝(★1)からとったものです。

長文を組んだ時には、行に凹凸が生じることから、視覚的に文章の流れを掴みやすいという特徴を持っています。そのため、長時間読んでも目に負担が掛らず、可読性に優れた書体とされています。また、国内の印刷物でもっとも多く使用されている書体です。



★1 王朝
王様の政権のこと。違う家系の王家が政権を奪うことによって、新王朝となる。中国ではかつて「明」の他にも、「秦」、「漢」、「唐」など様々な王朝が存在した。

ゴシック体

永 あ
ア A

ゴシック体は画線部がほぼ均一な太さでデザインされた書体です。その成り立ちには諸説ありますが、隷書体(★2)が発展する過程で欧文のサンセリフ(★3)のデザインを取り入れたのが始まりとも言われています(★4)。かつては漢字で「呉竹」と表記し、「ゴチック体」と呼ばれていました。

明朝体に比べて線が太く、黒みが強い印刷では古くから見出しなど、紙面で強調したい部分に用いられてきました。

- ★2 隷書体
中国から伝わった書体の一つ。詳細はP51に記載。
- ★3 サンセリフ
欧文書体の分類の一つで、セリフ(和文書体におけるうろこ)がなく、文字の線幅がほぼ均一な書体を指す。(代表的なサンセリフの書体) Helvetica/Futura/Gill Sans など
- ★4 明治19年に大蔵省印刷局が発行した『官報』の見出しに使われたのが初出であり、明治20年代に一般化したという説もある。

その他の書体

- 二つの代表的な書体の他にも
- 丸ゴシック体：ゴシック体の角を丸めた書体
 - 伝統書体：中国から伝わった篆書体、隷書体、楷書体、行書体、草書体、宋朝体など
江戸時代に作られた江戸文字(勘亭流、寄席文字、相撲文字、籠文字、ひげ文字など)
 - 教科書体：楷書体を手書きの文字に近づけた書体
 - ディスプレイ体(デザイン書体)：ベーシックな書体とは異なる独自のデザインで設計された書体などがあり、これらの書体用途に合わせて使い分けることによって、視覚的な効果(見やすさ・読みやすさ・ビジュアル)を高めることができます。

和文書体を構成する要素

字面

愛

仮想ボディに対する文字の大きさ(面積)のことです。本誌1号(P6~7)で詳しく解説しています。

骨格 + ふところ

東

画線部の中心線を骨格と言ひ、骨格によって生まれる文字が抱える空間をふところと言ひます。

ふところを広い設計にすると、文字を大きく見せることができますが、はらいなどが短くなるため、広がりのない印象になります。逆にふところを狭くすると、伸びやかな印象になります。

東 東

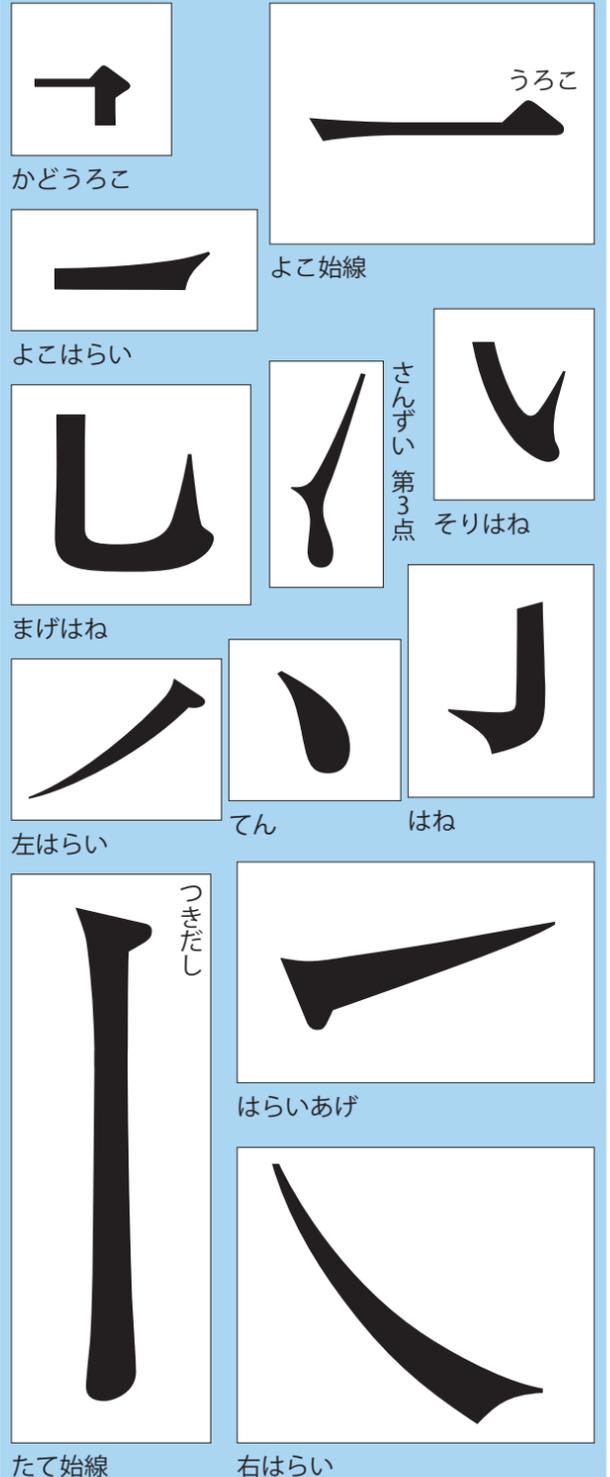
ふところが広い
↓
はらいが短い

ふところが狭い
↓
はらいが伸びやかに



エレメント

骨格に付けられた装飾的な要素です。エレメントは書の筆法に則ったものであり、手書きの風合いを感じさせる要素でもあります。



スタイル

前述した3つの要素の調整によって、書体は3つのスタイルに分類できます。

オールドスタイル

永あ
アA

金属活字に倣い、筆使いを意識した書体です。字面が小さく、漢字とかなのサイズに差があるため、縦組みにした時には行の左右に凹凸が生じます。この起伏が視覚的に文章の流れを掴むのに適しており、可読性を高める要素となっています。一方で、横組みでベタ組みにすると字間がばらついて見えます(例:筑紫明朝オールド)。

著者が著した内容の全てに、著者自身が責任を負いながら、著者の意向を十分にくみ取って編集・出版していくものが自費出版で

著者が著した内容の全てに、著者自身が責任を負いながら、著者の意向を十分にくみ取って編集・出版していくものが自費出版です。出版費用は全額著者のご負担となります。当社ではISBNコード番号の取得や書店への流通などについてお手伝いをいたします。専任の編集者が共同して、刊行物の編集・出版を行います。企画出版は、社会性や普遍性と一定の編集レベルが求められることから、出版社サイドが主導する編集実務で一冊にまとも

はらうたり

ギョツとしたり

お米みたいな

感じ

モダンスタイル

永あ
アA

ふところが広く、字面が大きい書体で写植の時代に多く作られました。全般的に文字が箱型に近いので、横組みにした時に字間が空いて見えることがありません。「現代的な明るい印象」を与えることが多いようです(例:小塚明朝)。

著者が著した内容の全てに、著者自身が責任を負いながら、著者の意向を十分にくみ取って編集・出版していくものが自費出版で

著者が著した内容の全てに、著者自身が責任を負いながら、著者の意向を十分にくみ取って編集・出版していくものが自費出版費用は全額著者のご負担となります。ISBNコード番号の取得や書店へ



しかっこ
つかやすい

スタンダードスタイル

永あ
アA

オールドスタイルとモダンスタイルの中間的な書体です。縦組にも横組にも適した万能型の書体です(例:筑紫明朝)。

著者が著した内容の全てに、著者自身が責任を負いながら、著者の意向を十分にくみ取って編集・出版していくものが自費出版で

著者が著した内容の全てに、著者自身が責任を負いながら、著者の意向を十分にくみ取って編集・出版していくものが自費出版費用は全額著者のご負担となります。ISBNコード番号の取得や書店へ

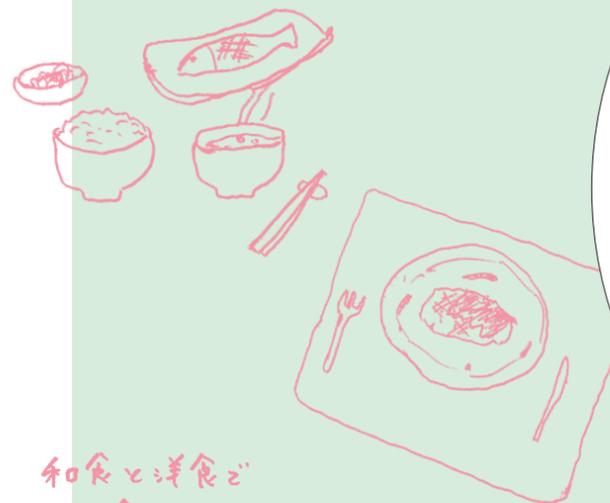


ソツがない

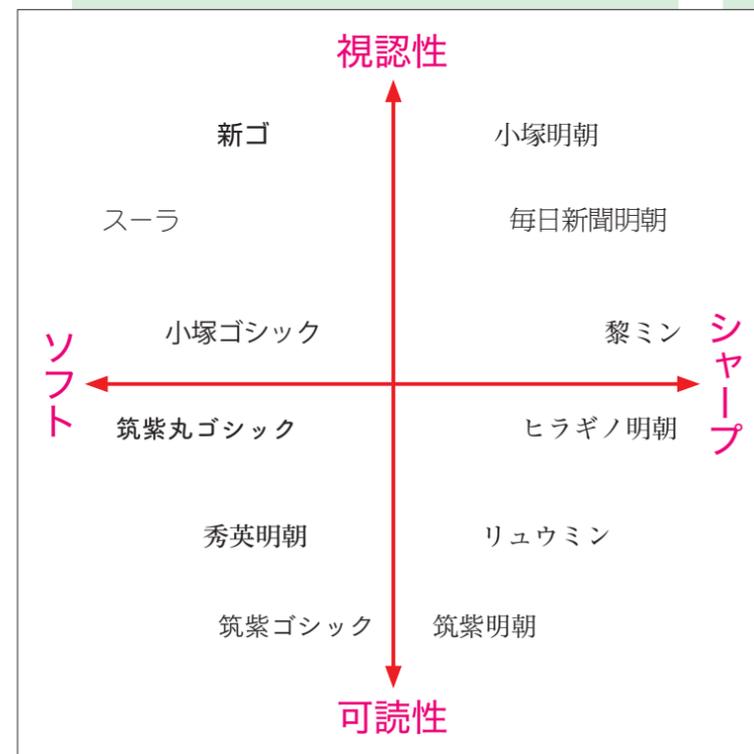
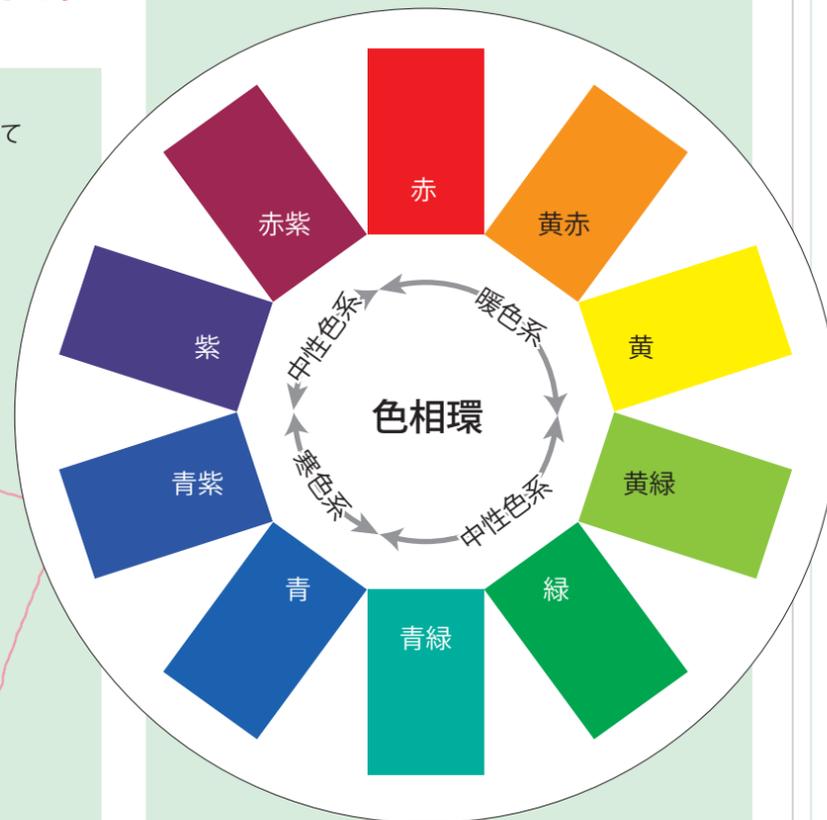
発音で
スポーツも293

書体の特徴を掴む事によって、書体を色のように捉える事ができます。

色を色相環で考えるように、書体も特徴によって分類することができます。



和食と洋食ど
食器を使いわけよう



書体マトリックス

書体を個人的な好き嫌いで選択するのではなく、特徴を掴むことによって、用途に合わせた選択が可能となります。

大きさは「mm」や「Q」など、色は「CMYK」や「RGB」などを使って数値化して管理することが可能ですが、これらの書体の特徴は数値化して表わすことができません。

よって書体を選ぶ場合には、特徴をよく理解し、「なんとなく」選ぶのではなく、制作物の意図から意識的に書体を選ぶことが重要です。



季節によって
服を替えるように

ウェイトとファミリー

ウェイト



文字の太さのことをウェイト（重さ）で表現しています。

L = ライト

R = レギュラー

M = メディウム（ミディアム）

D = デミボールド

B = ボールド

E = エクストラボールド

H = ヘヴィボールド

U = ウルトラボールド

書体を使用する際には、用途によってこれらのウェイトを使い分けます。

R・M = キャプション

L・R・M = 長文

D・B・E = 小・中タイトル

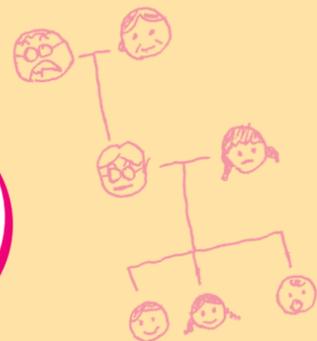
E・H・U = 大タイトル

つまり、文字の大きさに合わせてウェイトを変える必要があるということですが、これは書体が予め使う大きさを想定して設計されているためです。

注意点としては、太い書体を小さく使うと文字が潰れてしまうことが挙げられます。また、ウェイトの使い分けは飽くまでも目安であり、必ずしもこうでなくてはならないというものではありません（むしろ欧文では細い書体を見出しに使うことが一般的です）。

また、同じウェイトでも書体によって太さが異なる場合があるので、複数の書体の太さを揃える時には注意しましょう。

ファミリー



同じコンセプトでデザインされた書体を複数のウェイトで展開したものをファミリーと言います。本文や見出しを同じファミリーの書体で揃え、それぞれ異なるウェイトで使用すると、適度に調和を保ちつつ、紙面にコントラストを生み出すことができます。

- こちらの書体はリュウミン L
- こちらの書体はリュウミン R
- こちらの書体はリュウミン M
- こちらの書体はリュウミン B
- こちらの書体はリュウミン EB
- こちらの書体はリュウミン H
- こちらの書体はリュウミン EH
- こちらの書体はリュウミン U

リュウミンのファミリー

金属活字（資料提供：関フカミヤ様）

タイポグラフィと組版の意味を考える

一方、海外では活字を組むことをタイポグラフィ（Typography）と呼びました。現代では日本でも使われる言葉で組版と似た意味で使われることもあります。

どちらも文字を扱う技術のことですが、調べてみるとこの二つの言葉には似て非なる部分があることがわかります。

「タイポグラフィ」という言葉はデザインの分野で大事な要素の一つとしてよく扱われます。文字の可読性（読みやすさ）、視認性（見やすさ）に配慮してレイアウトする技術のことですが、文字と文字の間のスペース（カーニング）や書体を大事にした、どちらかと言えば視認性を重視した考え方であると言えます。

小塚ゴシックのファミリーを使用した本誌1号の誌面



和文書体セレクション JAPANESE FONT SELECTION

MINCHOU 明朝セレクション

石井明朝/A1 明朝/本蘭明朝/リュウミン/マティス/ヒラギノ明朝/小塚明朝/筑紫明朝/秀英明朝

GOTHIC 呉竹セレクション

石井ゴシック/ゴシック MB 101/ゴナ/新ゴ/ロダン/ヒラギノ角ゴ/小塚ゴシック/こぶりなゴシック/筑紫ゴシック

MARUGOTHIC 丸呉竹セレクション

ナール/じゅん/スーラ/筑紫丸ゴシック

TRADITIONAL FONT 伝統書体セレクション

DF 新篆体/隷書 E1/グレコ/万葉行書/万葉草書/勘亭流/DC 寄席文字/DF 相撲体/DC ひげ文字/DC 籠文字

DESIGN FONT 装飾書体セレクション

タイボス/スーボ/ゴージャ/タカハンド/フォーク/ロウディ/スキップ/竹/はるひ学園/くろかね

※写研の書体は写研の専用機でのみ使用が可能です。

石井明朝 (写研/'33) 石井茂吉

Ishii minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

写研の創業者・石井茂吉氏が手掛けた明朝体。築地明朝の12ポイント活字をベースに、かなはより現代的な楷書のイメージに近づけたものとなっている。かなの書体にはニューススタイル（現代的な字形）、オールドスタイル（筆書き風の字形）があり、さらにそれらに大きいバージョン（大がな）と小さいバージョン（小がな）がある。

この書体のココが好き（社内アンケートより）

◆明朝系のなかでは手書きっぽい ◆縦組みの自費出版に使える ◆昔からよく使っているから ◆見やすい ◆落ち着く。くせが少ない ◆単行本っぽい。可愛い ◆細すぎず太すぎず丁度良い太さ（中明朝）



Ishii minchou collection

エレメントが美しい明朝体（ニューススタイル大がな）

エレメントが美しい明朝体（ニューススタイル小がな）

エレメントが美しい明朝体（オールドスタイル大がな）

本蘭明朝 (写研/'75) 橋本和夫・岡田安弘・鈴木勉

Honran minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

写植機は当初、広告やポスター、雑誌などで普及したことから、書籍などの分野では依然として金属活字が主流であった。そんな背景から「書籍の本文組みに適した書体」をコンセプトに設計された新しい明朝体として開発された。同社の石井明朝に比べ、線に揺らぎの少ない設計が、紙面に均一な濃度をもたらしてくれる。ちなみに、「本蘭」の「本」は書籍の「本」に由来し、「蘭」は写研のシンボルとして他のいくつかの書体名にも刻まれている。

この書体のココが好き（社内アンケートより）

◆本文書体に使いやすい ◆昔からよく使っているから ◆縦組みが見やすい ◆使い慣れているので ◆読みやすい ◆きれいに見える ◆見慣れている ◆文字がはっきりしていて見やすい ◆見た目Q数が大きく見えるので ◆外字や作字が揃っている



銀河鉄道の夜

A1明朝 (モリサワ/'60)

A1-minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

書体の数では写研に差を付けられていたモリサワが初めて独自に開発した太明朝体。当初は「太明朝体 A1（エーワン）」として発売され、モリサワの写植機専用の書体だったが、'05年にデジタルフォントとして複製された。

オールドスタイルの明朝体で、ウェイトのバリエーションはないものの、見出しにも本文にも幅広く利用できる。線の交差部分に「墨だまり」と言われる滲んだような加工が施されており、柔らかく、温かい印象を与える。

この書体のココが好き（社内アンケートより）

◆墨だまりを意識したデザインがいい



リュウミン (モリサワ/'82) 森川龍文堂

Ryumin

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

戦前にあった森川龍文堂（もりかわりょうぶんどう）の明朝体をベースにデザインされた明朝体で、名称はそこからとったもの（リュウ＝「龍」、ミン＝「明」）。

'89年（日本語DTP元年とも言われる）に和文フォントとして、いち早くデジタル化を行ったことで、現在ではDTPでもっともスタンダードな明朝体としての地位を確立している。

金属活字で特徴的な彫刻刀の冴えを活かした輪郭を持ち、曲線部の鋭さと直線部の柔らかさを兼ね備える。

この書体のココが好き（社内アンケートより）

◆上品なイメージがする ◆使い慣れている ◆万能な書体なので ◆使いやすい ◆塩味っぽい ◆ほっそりして美しい。ウェイトが多いので ◆昔からメインで使っていて使いやすい ◆すっきりとおしゃれ ◆オールマイティー ◆困ったら迷わずこれです ◆美しい ◆安定感がある ◆字形がいっぱいあるし、形も普通なのがよい ◆見やすい

Minchou Selection 明朝セレクション

本文用書体として揺るぎない地位を誇りながら、見出しや題字で大きく使用すると上品さや伝統的な印象を強く打ち出すこともできます。また明朝体と一口に言っても、筆勢を感じさせる力強いものから、近代的でシャープな印象のものまで、様々なものがあります。

Ryumin collection

エレメントが美しい明朝体（大がな〈KL〉）

エレメントが美しい明朝体（小がな〈KS〉）

エレメントが美しい明朝体（オールドがな〈KO〉）

野に咲く花のように



筑紫明朝 (フォントワークス/'04) 藤田重信

Tsukushi minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

元・写研の書体デザイナー・藤田重信氏を中心に開発された明朝体。それまでのフォントワークスにはなかった長文に合う本文書体として、可読性を重視した設計がされている。伝統的な活字の風合いをベースにしつつも、きめ細やかな意匠が洗練された味わいをもたらす。

この書体のココが好き (社内アンケートより)

- ◆きれいだと思う ◆醤油味っぽい ◆よく使うので ◆1文字1文字のバランスが良い ◆はねとかカーブが好き
- ～以下はオールド明朝について～
- ◆柔らかい感じ ◆なんかかわいい ◆すっきりした感じに見える ◆数字が好き。この書体にするだけで雰囲気が出る ◆かなの形が素敵 ◆形がおしゃれなので見出しとかに使う

Tsukushi minchou collection

エレメントが美しい明朝体 (筑紫 A オールド明朝)

エレメントが美しい明朝体 (筑紫 B オールド明朝)

エレメントが美しい明朝体 (筑紫 A 見出ミン)

エレメントが美しい明朝体 (筑紫 B 見出ミン)

おでんいかがですか



マティス (フォントワークス/'92) 佐藤俊泰

Matisse

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

かなの繊細な柔らかさを残しつつ、現代的な字形で描かれた明朝体。字面が大きめに作られているため、明るく洗練とした雰囲気が感じられる。字面が大きい設計は、横組みにした時に字間が空いて見えないという利点もある。

ヒラギノ明朝 (大日本スクリーン製造/'93) 鈴木勉・鳥海修・片田啓一

Hiragino minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

大日本スクリーン製造の「千都フォントシリーズ」の一つ。ビジュアル雑誌やパンフレット向けの明朝体として、字游工房が初めて手掛けた書体でもある。書体名は大日本スクリーン製造がある京都・嵯野に由来する。字面が大きく、現代的な明るい表情を持ち、発売当初から「都会的でクールな明朝体」として高く評価されている。また、縦組みにも横組みにも適しているという点では汎用性が高い。Mac OS X に標準搭載され、以降普及が進んでいる。

この書体のココが好き (社内アンケートより)

- ◆シャープでかっこよく、かつ読みやすい ◆ポリシーを感じる

ロミオとジュリエット



小塚明朝 (アドビシステムズ/'98) 小塚昌彦

Kozuka minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

アドビシステムズのオリジナル明朝体。モリサワで新ゴなどの書体を手掛けた小塚昌彦氏が制作統括を務めた。字面を大きく、均一なサイズで作られたモダンタイプの明朝体であり、組んだ際にはまっすぐなラインを形成する。これらの特徴から、特に横組みに適した明朝体であると言える。

み吉野の山の秋風 小夜ふけて



秀英明朝 (モリサワ/'09) 大日本印刷

Shuei minchou

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

明治15年に設立された秀英舎鑄造部製文堂(大日本印刷の前身)で開発された「秀英体」を復刻・改刻したもの。字形に特有の連綿を持ち、上品で落ち着いた印象を持っている。

この書体のココが好き (社内アンケートより)

- ◆上品なイメージがする ◆かっこいい ◆形が柔らかくて好きです ◆文系・縦組み

洗練された装い

ヒラギノ角ゴ

Hiragino kakugo (大日本スクリーン製造/96) 鈴木勉・鳥海修・片田啓一

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

字游工房が手掛けた二つ目の書体。ヒラギノ明朝との混植を目的に作られ、同様の骨格で設計されている。ヒラギノ明朝よりも多い9段階のウェイトを持っており、本文用の細いウェイトが充実している。

ゴシック体の定番である写研のゴナやモリサワの新ゴなどのモダンゴシック体に比べ、ふところを締め気味にしたことによって、引き締まった印象となっている。

山動の如し かざるマウ

この書体のココが好き (社内アンケートより)
◆角ばった感じがとても良い ◆力強さを感じる

ぼくらの地球



この書体のココが好き (社内アンケートより)
◆数字の形が好き ◆固め・柔らかめどちらでもいける ◆横に広がって見えなくてすっきり ◆柔らかい感じがいい

小塚ゴシック

Kozuka gothic (アドビシステムズ/01) 小塚昌彦

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

アドビシステムズのオリジナルゴシック体。小塚明朝と同じコンセプトで開発され、字面は大きめだが仮想ボディの角ばった形を感じさせないデザインとなっている。

小塚明朝はシャープなイメージを持つのに対し、ゴシックは柔らかい曲線が特徴的。ちなみに本誌『たのしい組版』の本文用和文書体でもある。

吾輩だって

猫である



こぶりなゴシック

Koburina gothic (大日本スクリーン製造/06) 字游工房

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

凸版印刷から「写植の頃にあったようなゴシック体」という発注を受け、字游工房が制作したゴシック体であり、その後大日本スクリーン製造の「千都フォント」シリーズの書体として発売された。その名のとおり字面が小さめに設計されており、近代のインパクトが強いゴシック体とは異なる上品な風合いがある。

筑紫ゴシック

Tsukushi gothic (フォントワークス/06) 藤田重信

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたての coffee をもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなによりの宝物です。

筑紫明朝との混植を想定して作られたゴシック体。骨格は筑紫明朝と似た形で作られ、エレメントにはうろこなどがあることから、筆文字が意識されていることが伺える。サンセリフ的な直線のイメージよりも、曲線の柔らかさが際立っており、硬さを感じさせないゴシック体となっている。

この書体のココが好き (社内アンケートより)
◆はねとかカーブが好き ◆きれいな

大正ロマン



MARUGOTHIC SELECTION ●丸呉竹セレクション

金属活字としては1900年頃に誕生したと言われていますが、現在の丸ゴシックとは字形が異なり、第2次世界大戦を境に消失してしまったと言われていいます。その後1956年に写研から「石井中丸ゴシック」が発売され、これが現在の丸ゴシック体の源流であると考えられています。



じゅん (モリスワフ'73) 三宅康文
Jun

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたてのcoffeeをもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなよりの宝物です。

「じゅんゴシック」の丸ゴシック版として、写研のナールに対抗するべく投入された。当初は絵本での使用が想定されており、「幼児にも読みやすく、親しみやすい書体」をコンセプトに開発された。名称は「junior (ジュニア)」の頭3文字をとって付けられたもの。柔らかい丸ゴシック体の造形を踏襲しつつ、一部の文字には、はねなどの手書き風の要素を残している。

駆け込み乗車はおやめください



スーラ (フォントワークス/'93)
Seurat

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたてのcoffeeをもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなよりの宝物です。

字面が大きく柔らかい表情が特徴的な丸ゴシック体で、名称はフランスの画家・ジョルジュ・スーラからとったもの。DTPの黎明期から高い人気を誇った。



この書体のココが好き (社内アンケートより)
●細くもなく太くもなく中間の太さが好きです (ナールDB) ●柔らかい感じ ●バランス的に ●丸くてかわい ●よく使うので

かえるぴよこぴよこ みぴよこぴよこ

ナール (写研/'73) 中村征宏
Narl

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたてのcoffeeをもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなよりの宝物です。

写研主催の第1回「石井賞創作タイプフェイスコンテスト」で1位に入賞し、製品化された。それまでの書体にはないほど字面が大きく、インパクトのある丸ゴシック体として高い人気を誇り、丸ゴシック体の代名詞となった。書体名はデザイナー名「中村」の「な」とラウンド (Round) の頭文字「R」を掛け合わせたもの。



筑紫丸ゴシック (フォントワークス/'08) 藤田重信
Tsukushi marugothic

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたてのcoffeeをもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなよりの宝物です。

なにげない毎日に幸せを感じる

いれたてのcoffeeをもってバルコニーを出る。キラキラと光る川面を風がわたって、それがこっちにもやってくる。365日、空と緑がなよりの宝物です。

筑紫シリーズの丸ゴシック版。他の多くの丸ゴシック体とは異なり、字面を小さく、ふところを縮めた設計がされており、上品なイメージとなっている。標準スタイルのAとオールドスタイルのBがある。

篆書体 (てんしよたい)

永い春の日を楽しむ

DF 新篆体 (ダイナコムウェア)

中国の周 (紀元前 1046 年頃～紀元前 256 年) の時代に作られた金文 (青銅器の表面に刻まれた文字) をルーツとし、戦国時代 (紀元前 403 年～紀元前 221 年) に確立された。現代でも書道や印章などに用いられることから、古代文字に分類される書体の中ではもっとも息の長い書体と言われる。ちなみに、周で作られた古文を「大篆 (だいてん)」、それ以降に発達・整理されたものを「小篆 (しょうてん)」という。

隷書体 (れいしよたい)

永い春の日を楽しむ

隷書 E1 (モリスワ)

篆書体を簡略化したもの。中国で秦 (紀元前 778 年～紀元前 206 年) が中国を統一した際に国の公式書体として、篆書体を定めたが、字形が複雑だったため、走り書きされることが多くなり、隷書が生まれるきっかけになったとされている。秦の滅亡後の前漢 (紀元前 206 年～8 年)・後漢 (25 年～220 年) の時代には隷書体が公式書体として定められた。篆書体が縦長な文字であるのに対し、隷書体は横長な形をしている。

勸亭流 (かんでいりゅう)

永い春の日を楽しむ

勸亭流 (モリスワ)

歌舞伎の看板などに使用される書体。岡崎屋勘六が 1779 年に考案し、勸亭流の名称の由来は作者の号「勸亭」に由来する。



寄席文字 (よせもじ)

永い春の日を楽しむ

DC 寄席文字 (ダイナコムウェア)

古くから寄席の看板やピラ (チラシ) などに使用されてきた書体。



Traditional Font Selection

伝統書体セレクション

伝統書体とは、印刷用の独自の書体が生まれる前からあった書体のことを言います。中国では歴史の流れ (王朝の変遷) とともに様々な書体生まれ、それらが日本にも伝播しました。また、日本国内にも江戸時代から続く伝統書体が存在しています。

楷書体 (かいしよたい)

永い春の日を楽しむ

グレコ (フォントワークス)

手書き書体を「楷書」、印刷書体を「楷書体」と呼ぶ。隷書をさらに実用化した書体で、一画一画を続けて書くのではなく、一画ごとに筆を離してから書き、字形が正方形に近いという特徴を持つ。名称は直線主体の外観から「まっすくな木 (楷)」に由来する。明朝体に比べて筆使いが強く反映されている。

行書体 (ぎょうしよたい)

永い春の日を楽しむ

万葉行書 (フォントワークス)

隷書の走り書きをルーツとする書体。楷書体が一画一画を丁寧に書くのに対し、行書体は続け書きを特徴とし、名称は、「止まらずに続けて (行く) 書く」という意味に由来する。楷書とは大幅に字形が異なることはないので、楷書を読むことができれば、読むことが可能な書体となっている。

草書体 (そうしよたい)

永い春の日を楽しむ

万葉草書 (フォントワークス)

篆書や隷書から発生した書体と考えられており、名称は「急いで (草々に) 書く」という意味に由来する。字形の省略が激しく、同じ文字でも書家 (書の専門家) によって形が異なるものもある。明治以降の日本では楷書を「正式な書体」とし、行書を「日常的な筆記体」としたため、草書は「非日常的な芸術向けの書体」として位置づけられている。

相撲文字 (すもうもじ)

永い春の日を楽しむ

DF 相撲体 (ダイナコムウェア)

古くから相撲の番付やピラ (チラシ) に使用されてきた書体。根岸流とも呼ばれる。



ひげ文字 (ひげもじ)

永い春の日を楽しむ

DC ひげ文字 (ダイナコムウェア)

文字の一部がひげのようにになっている書体。



籠文字 (かごもじ)

永い春の日を楽しむ

DC 籠文字 (ダイナコムウェア)

提灯や千社札 (せんじゃふだ) に使われる書体。一筆書きではなく、輪郭をとってから中を塗りつぶすという手順で描かれ、この時に塗りつぶす部分に籠目状の斜線を入れることから「籠文字」と呼ばれた。





タイポス (写研/69) グループ・タイポ

Typos

なにげないまいにちがしあわせ

デザインとしては'62年に完成し、その後写研から発売。それまでにはないタイプの斬新な書体として大きな反響を呼んだ。タイポスを手掛けたグループ・タイポのメンバーであった、林隆男氏は'75年にタイプバンクを設立し、デジタル書体の黎明期から書体開発に参入している。現在は「漢字タイポス」もある。



スーボ (写研/74) 鈴木勉

Subo

なにげない毎日に幸せを感じる

第2回「石井賞創作タイプフェイスコンテスト」で最優秀賞を獲得し、製品化された極太丸ゴシック体。通常、太い書体で画数の多い文字を描く場合には、線幅を細く調整するが、「スーボ」は極力均一な太さを保つために、線同士を食い込ませるといった独特な処理が施されている。丸くて柔らかい書体でありながら、字面を大きく設計することによってインパクトのある文字となっている。



フォーク (モリサワ/93)

Folk

なにげない毎日に幸せを感じる

太い縦画と細い横画によって作られているが、明朝体とは印象が異なり、柔らかく、親しみやすさを感じられる。マンガのふきだしなどにも使われることがある。



ロウデイ (フォントワークス/95)

Rowdy

なにげない毎日に幸せを感じる

同社のロタンをベースに一部の線を極端に太くしている。その設計はすべて右方向への力強さを意識したもので、パワフルな印象をもたらしている。

レッド・ホット
チリ・ペッパー

ゴーシャ (写研/81) 鈴木勉

Gosha

なにげない毎日に幸せを感じる

スーシャのゴシック版として開発された書体。スーシャの骨格をもとに、エレメントの先端のひげを強調するデザインが施されている。太いウェイトでは黒みが強い、インパクトのある文字でありながら、スーシャの持ち味であった鋭さも引き継いでいる。

なんだか
いつも雨ふり



タカハンド (モリサワ/87) 高原新一

Takahand

なにげない毎日に幸せを感じる

手書き風のデザイン書体。点などのエレメントをドットで表現した独特なタッチ、直線と極端な曲線が入り混じった個性的な骨格を特徴とする。

素材：
シルク100%

スキップ (フォントワークス/03) 藤田重信

Skip

なにげない毎日に幸せを感じる

同社のハミングと共通のコンセプトで作られており、ハミングの角を尖らせたような印象になっている。字面が大きいため視認性が高いが、硬すぎず、くだけすぎずといったイメージであるため、使用する場面が限定されない。

頑張れニッポン



竹 (モリサワ/07) 竹下直幸

Take

なにげない毎日に幸せを感じる

'93年に『国際タイプフェイスコンテスト モリサワ賞』の銀賞を受賞した同名の書体を改刻し、製品化したもの。ゴシックのように直線的なラインと楷書の筆使いを融合したデザイン書体で、モリサワでは「ゴシック系スクリプト書体」と紹介している。

日曜日は
公園で...



はるひ学園 (モリサワ/07) 七種泰史

Haruhigakuen

なにげない毎日に幸せを感じる

'99年に『国際タイプフェイスコンテスト モリサワ賞』の金賞を受賞した「学園」という書体をベースに、製品化。「はるひ」の名称は、作者が書などの作品で用いる号「春陽(しゅんよう)」からとった。手書き風のデザインで、個々の文字に際立ったインパクトを持ちながら、全体としては一貫した統一感がある。漢字の偏と旁の間が空いていたり、線の交差部に墨だまりがあったりと、細かな意匠がすべて柔らかいイメージに結びついている。



くろかね (フォントワークス/08) 大崎善治

Kurokane

なにげない毎日に幸せを感じる

「くろかね」は漢字で書くと「黒鉄」であり、「黒々と重く鈍い鉄」をイメージして制作された。刃物でスパッと切り落としたような先端部が個性的。

ゴング出現!!

Design Font Selection

装飾書体セレクション

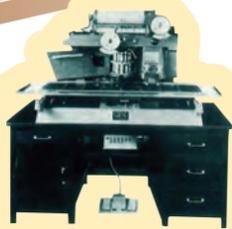
'62年にグループ・タイポから「タイポス」が発表され、明朝体やゴシック体といったスタンダードな書体とは異なる独自のデザインで設計された書体として注目を集めました。これに刺激を受けた、写研やモリサワではタイプフェイスコンテストが開催されるようになり、その中から多くのディスプレイ体(デザイン書体)が製品化されます。これらの新しい試みは、それまでにはなかった斬新な書体が生まれるきっかけとなったのです。

History

なつかしの会社案内からアイワードの本づくりにかける思いを辿る

Part 1

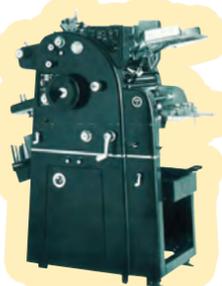
1974 昭和49年



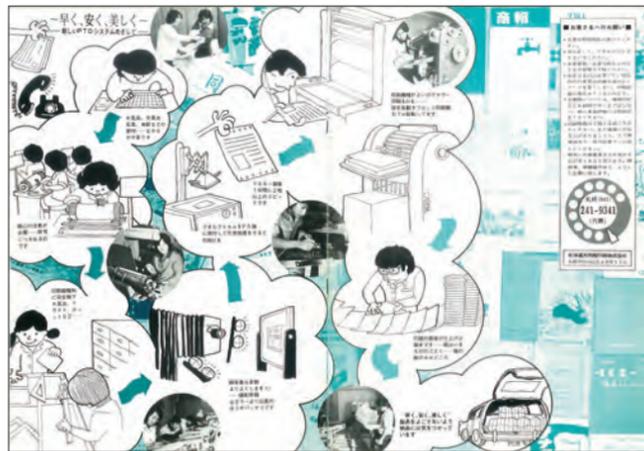
コールドタイプシステム



フルオートマッチック
エレクトロファクスシステム



フルオートマッチック
オフセットシステム



「よりよいプリンティングシステムをめざして」

APO（アプライプリンティングオフセットシステム）は、印刷工程の三部門のシステムが相互に関連した一貫したシステムとして、当社が独自に開発した印刷システムです。

—中略—

このAPOは本来の目的からして「早く、安く、美しく」をモットーにして取り組んだシステム開発であり、新しいPTO（タイプオフセット印刷）をめざしたシステムであります。

（初めての営業案内より引用）

1979 昭和54年



共同印刷はこんな職場です

若さはつつ

下は19歳、上は40歳、平均年齢24歳、若いエネルギーがみなぎっています。

女性生き生き

45人中女性が20人、うち課長が5人、女性の能力が生かされています。

みんな平等

45人中5名（一割以上）が身障者、みんな平等、明るく仕事にはげんでいます。

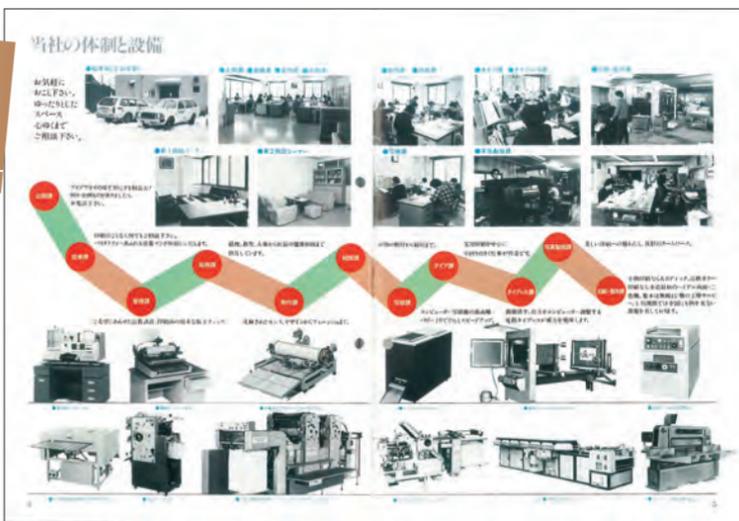
よく遊び

野球部があります（実力は中の中?）。スキーでアメリカ遠征した者もいます。

よく学ぶ

社内教育、講習会参加はもとより、各課ごと計画的に学習しています。

（「本づくりのごあんない（第1版）」より引用）



1981

昭和56年

KYODOはお客様の期待にトータルでお応えします。

企画から納品まで、すべて自社で完結する責任体制。



得意です

●文字・ページ印刷
当社で最も得意としているのはこの分野です。デジタル（DTP）と、電動タイプ（EOT）の両方を併用し、効率的な印刷方式を採用し、半自動による印刷スピードアップを行っています。

●多品種・少量カラー印刷
商業・美術印刷は、多岐にわたるデザインが生み出されています。お客様のニーズに応えるべく、デジタルをほぼ中心とした印刷システムを採用し、印刷の柔軟性を高め、印刷のスピードアップを実現しています。

特長は

●一貫した体制
企画、印刷、製本と印刷の分野が揃っており、印刷の工程の中で、当社では企画から製本まで、一貫して行われる体制をとっています。

●印刷の効率
最新の印刷機を導入し、印刷のスピードアップを実現しています。

●印刷の品質
最新の印刷機を導入し、印刷の品質を向上させています。

●印刷のコスト
最新の印刷機を導入し、印刷のコストを削減しています。

●印刷の柔軟性
最新の印刷機を導入し、印刷の柔軟性を向上させています。

納品までの主なプロセス



私たちはまだまだ若く未熟です。

でも、努力する心、まごころだけは誰にも負けないつもりです。印刷の仕事を楽しみ、印刷を通して社会のお役に立とうと頑張っています。

●若い力—無限の可能性

当社の平均年齢は25歳、若さにあふれ、無限の可能性が、当社の最大の財産です。

●はつつ—半数が女性

従業員68人のうち、女性が半数を占めています。

●ハンディ（障害）を乗り越えて

従業員のうち、身体に重度の障害をもつ者が約一割働いています。

（営業案内「KYODOはこんな会社です」より引用）

エゾリス君は、機敏でかわいい働き者。当時は共同印刷のキャラクターとして使用していました。



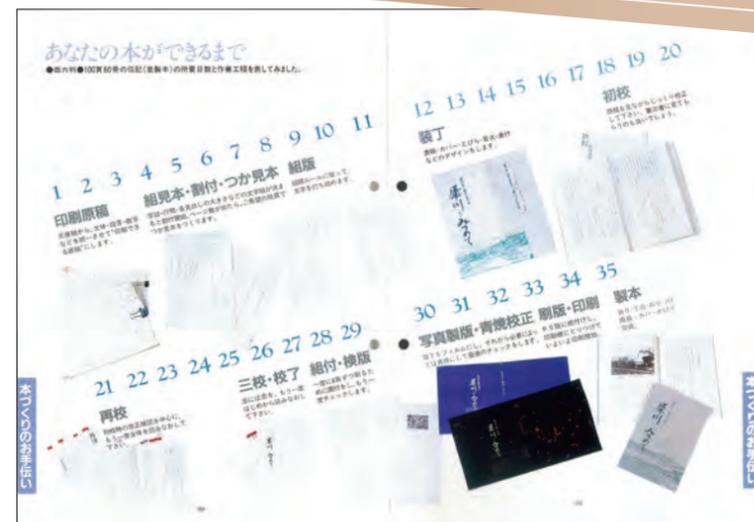
「全国自費出版展」を主催

知的表現への意欲や、貴重な体験を世に残したいという熱意などによる自費出版づくりの高まりは、北海道も例外ではありません。そこで今後の自費出版発行の参考にしていただくよう、全国の自費出版850点余りを集め、昭和59年8月9日から13日にかけて「全国自費出版展」を開催いたしました。

（「本づくりのごあんない（第3版）」より引用）

1984

昭和59年



参考文献

- 『コールドタイプ和文組版技術教科書』（一色文臣/73）
『組み NOW 〈写植ルールブック〉』（写研/75）
『現代組版の基礎知識』（新井暢/81）
『文字に生きる 1976—1985』（写研/85）
『タショニム・フォント見本帳』（写研/95）
『アイデア』（313号/05）
『デザインの現場』（'06年10月号）
『エディトリアル技術教本』（板谷成雄/08）
『デザインの教室 手を動かして学ぶデザイントレーニング』（佐藤好彦/08）
『文字のデザイン・書体のフシギ』（祖父江慎・藤田重信・加島卓・鈴木広光/08）
『書体を読む。』（七種泰史/08）
『日本語活字ものがたり』（小宮山博史/09）
『タイポグラフィの基礎』（小宮山博史/09）
『タイポグラフィの基本ルール』（大崎善治/10）
『デザインの授業 目で見て学ぶデザインの構成術』（佐藤好彦/11）
『タイポグラフィの基本ルール』（大崎善治/10）
『デザインの授業 目で見て学ぶデザインの構成術』（佐藤好彦/11）
『TYPOGRAPHY03』（グラフィック社編集部/13）
フォント千夜一夜物語（Web）
日本語フォント外伝（Web）
写植ファンサイト亮月製作所（Web）
もじマガ 文字の巨人（Web）
文字の食卓（Web）
フォントメーカー各社のホームページ（Web）

企画・編集

アイワード プリプレス部



株式会社アイワード

<http://www.iword.co.jp>

本社 〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番地91
東京営業部 〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 高岡ビル6階
札幌工場 〒060-0033 札幌市中央区北3条東4丁目5番地64
石狩工場 〒061-3241 石狩市新港西3丁目768番地4

TEL 011-241-9341 FAX 011-207-6178
TEL 03-3239-3939 FAX 03-3239-3945
TEL 011-251-0009
TEL 0133-71-2777 FAX 0133-71-2895